

移民の魁・星名謙一郎のハワイ時代前期

キリスト教伝道師の頃

飯 田 耕二郎

はじめに

1. 草創期におけるハワイ日本人へのキリスト教伝道
2. 耕地労働者より伝道助手（1891年の活動）
3. 岡部牧師留守中の監督（1892年の活動）
4. 1893年以降の様子

はじめに

筆者は先に『大阪商業大学論集』第151・152号において、「移民の魁・星名謙一郎のブラジル時代」と題する小稿を発表したが、本稿においては彼が最初に移民として活躍したハワイ時代にさかのぼってその活躍ぶりを詳しく記述したい。それとともに彼の活動を通して初期のハワイにおける日本人社会の状況を明らかにすることも目的としている。

星名謙一郎のハワイに至るまでの略歴は次のようである。彼は明治になる2年前の1866（慶応2）年に伊予吉田（現在の愛媛県宇和島市）に生れた。東京に遊学して1883（明治16）年に開校したばかりの東京英和学校（現在の青山学院）に入学した。そして1887（明治20）年に予備学部卒業生として、当時の「東京英和学校一覧」に彼の名前がでている¹⁾。また、当時の『基督教新聞』の記事によれば、同年7月1日の東京英和学校予科卒業式において彼は「自由の精神」と題する英語演説を行なっている²⁾。さらに、同年から翌1888（明治21）年にかけて学院（東京英和学校）内において大リヴァイバルが勃興したが、彼はその中心的な人物であつたらしく、当時の状況を記した日誌のなかで、明治20年11月11日～13日にかけて彼の名前が登場する³⁾。とにかく彼は熱心なキリスト教徒であつたようだ。

さて、星名がハワイに到着後さまざまな職業に就いたことについて、次のような資料があるので、先ずこれを紹介しよう。

明治二十四年の頃、第十三回船にて出稼の為め渡来し、最初ワイアケアにありしが、君が穎敏にして勤勉なるや、容易く萬事に通ずると共に語學にも熟し、一轉して傳道師とな

1) 青山学院大学図書資料センター所蔵史料。

2) 『基督教新聞』第206号（明治20年7月6日）。

3) 青山学院五十年史編纂委員会編『青山学院五十年史』（青山学院、1932年）250～251頁。

り、再轉してパ、イコウ製糖所の通辨兼測量師となり、三轉して税關吏員となり、四轉して新聞記者となりホノル、報知新聞を發刊し、五轉して珈琲事業に着手し大に經營する所ありしが、六轉してオアフ島なるワイアルア耕地の監督となれり。夫れ移住者衆しと雖も轉變君の如く多きものは稀なり。是を以て能く布哇の事情に通ずるもの又、君の如きは實に雨夜の星斗よりも少なからむ⁴⁾。(句読点および下線は筆者)

彼が官約移民の第13回船でハワイに渡航したかどうかは、外務省の記録で調べたが、これまでのところ明らかではない。しかし1891(明治24)年までに何らかの形でハワイ島までやってきたことは事実である。そしてさまざまな職業に就くわけであるが、本稿では初期のキリスト教伝道師時代の活躍ぶりについて、ハワイの Mission House Museum Library に残されている彼と岡部牧師の手紙、そして当時の Hawaiian Evangelical Association(以下 HEA)の Annual Report(年報)などの史料を利用して明らかにしたい。

1. 草創期におけるハワイ日本人へのキリスト教伝道

筆者は以前に「〈ハワイ〉初期のキリスト教伝道」と題する小論でこのことについてまとめたので⁵⁾、ここではその概略を述べておこう。

1885(明治18)年、第1回官約移民のホノルル到着とともにキリスト教伝道が始められた。それはホノルルを中心にハワイアン・ボード(布哇伝道会社)の宣教師を主体として、第1回官約移民とともにやってきた青木牧師が橋渡しの役を担い、安藤太郎総領事ら日本のリーダーたちの協力によってなされたが、その活動の成果を十分にあげることができなかった。

次に美山貫一がキリスト教伝道のため、1887年と1888年の2回、サンフランシスコからハワイに渡航した。彼は当時、サンフランシスコの福音会に属していたが、ハワイ官約移民虐待の報が伝えられたため、日本人信徒たちがハワイ伝道の必要を感じ、その代表として彼を選んだ。第1回目の訪問はわずか80日間という短い期間であったが、安藤総領事、中山讓治移住局長らの協力のもと、日本人共済会を設立し、ホノルルのみに留まらずハワイ島、マウイ島の耕地を慰問し伝道を行なった。第2回目のハワイ滞在は約1年半に及び、前回やり残した仕事を安藤夫妻の庇護のもとで完成させた。すなわち矯風事業に関しては日本人禁酒会の設立であり、伝道事業に関しては日本人メソジスト教会の設立である。また彼は2回の訪問を通じて、各島の耕地の巡回を積極的に行い、耕地労働者に禁酒を教え、キリスト教を教えたことも重要であり、彼が去った後に展開される耕地の定住伝道のきっかけをつくったのである。1889年にはホノルル教会のほか、四大島に少なくとも1人の伝道者が定住することになった。

岡部次郎は、1889年春にサンフランシスコよりハワイに渡航した。その頃、ハワイ日本人

4) 藤井秀五郎『新布哇』(大平館、1900年)「附録在布日本人出身録」53頁。

5) 拙稿「〈ハワイ〉初期のキリスト教伝道」(同志社大学人文科学研究所編『北米日本人キリスト教運動史』PMC出版、1991年)27~67頁。

に対するキリスト教伝道の主流は先に述べたように、ホノルルを中心とした美山のメソジスト教会によって行なわれていたため、組合派の岡部はホノルルを避け、日本人が多くしかも未開拓の伝道地であるハワイ島に渡り、ハワイアン・ボードの援助を受けながらヒロ市を中



ハワイ島略図

(ヒロタイムス編『移民百年記念ハワイ島日本人移民史』1971年を筆者追加修正)

心に伝道を開始した。彼は幾多の困難迫害に遭遇しながら近傍の各耕地に伝道地を開き、日本人にキリスト教と英語を教えた。1890年7月、岡部はホノルルのセントラル・ユニオン教会で授手礼を受け、その年の末までに72名の受洗者を出した。翌1891年1月18日、日本人教会は独立し、ヒロ教会が設立され、岡部の牧師就任式も行われた。しかし、ハワイ島はハワイ諸島最大の島であり、日本人が最も多く、そこを1人で伝道できるものではなかった。伝道者不足がその頃からの悩みであり、彼は日本の『基督教新聞』に伝道者募集の手紙を送ったが、すぐさまこれに呼応してハワイに渡った者はいなかった。そのため岡部は同労する人を現地を得ることになった。それが星名謙一郎であり、当時ヒロ近郊のワイアケア・プランテーションの労働者であった彼を伝道助手としたのである。さらに同年6月、伝道船モーニング・スター号でマイクロネシアのクサイ島よりハワイに來航したポナペ・ミッションの峯岸繁太郎も加わり、ハワイ島北部のホノカア地方まで伝道地を広げていった。

2. 耕地労働者より伝道助手 (1891年の活動)

星名が岡部次郎の伝道助手になる前、砂糖耕地の労働者としてハワイ島のヒロの近くで働いていたのであるが、その頃の彼について紹介した数少ない文章がみられる。この筆者は、当時テキサスに在住していた彼を「在米成功者中、精力家としては先づ君を最位に推すべし」として、在米日本人中の名士であった安孫子久太郎の前に彼の生いたちからテキサスに至るまでを紹介し、「奇傑の名を實にす」という項目で、ハワイ時代の初期の頃を以下のように述べている。

渡布 (ハワイ渡航 筆者注) 後の君は逞しき体軀を、^{こうしよ}耕黍 (砂糖きび耕地 筆者注) の労働に汗して^さ些も倦怠の色なかりき、旺盛なる精力は其事業と労働とを問はず、往くとして^{しかりといへども}発せざることなく、尋常無教育の耕夫と何の異なる所なかりき、^や雖然君元より尋常の耕夫にあらず、当時は官約移民の時代にて、布哇耕主の横暴なる、較もすれば我同胞の権利を無視し、労働者を侮りて非理の所業少なからず、豪胆にして^{いづく}気概に富める君安んぞ之を黙止するの理あらむや、果然君の熱血は其度を加へて、^{さか}熾んに耕主の非を鳴らし、同胞の権利擁護の為に気を吐き初めぬ、卓越にして鋭利なる、論鋒と、豪胆にして一たび之を口にしては必ず其成功を實地に見むとする精悍なる気力とは、大に耕主の寒心を惹き、普通の労働者として油断せし一群中より、斯の素養ある論議を聞きて、耕主は始めて日本人労働者の侮るべからざるを知りぬ、而して一夜耕主は君を其邸宅の客室に招じて盛饗し、深く前非を謝して向後方針の改良を誓ひ、辞を卑^{ひく}ふして遂に君に請ふに耕地を出でむ事を以てす、時に君既に若干の資力あり、久しく留まりて労働に朽ちん事もとより其本意にあらず、且つ耕主の請願もあれば、直ちに同地を辞し去りぬ、是れ布哇に於ける君が活動の最初にして、奇傑の名漸く同胞に伝はれり⁶⁾。(漢字の旧字体は新字体に変更)

6) 上方生「在米成功日本人の評論」(『渡米雑誌』第10年第11号、1906年11月1日所収)。

彼は最初、砂糖きびプランテーションにおける一介の労働者としてその身を投じていたが、次第に頭角を現し、耕主の横暴を暴き日本人の権利を主張して同胞を援けた。そのため耕主から煙たがられ耕地を出て行くことになったのである。

ところで、星名が伝道師になった経緯であるが、ハワイにおける日本人最初のキリスト教組合派の牧師であった岡部次郎がハワイアン・ボードの秘書エマーソン⁷⁾に送った手紙によると、1891年1月5日と25日のものでは、彼の当時の助手であったオウチが亡くなり、ナガタニが日本に行ってしまったことを伝えた後、同年6月22日、岡部からエマーソンへの手紙で次のことを報告している。

私は喜んであなたに伝えたい。私はワイアケア・プランテーションでK・星名という若い人を獲得するのに成功した。ヒ口の日本人キリスト教徒はみな彼が大変好きになった。彼は私たちの教会で日曜日に朝の学校を始めた。私は勇気と希望を持って働いている。私たちは教会堂で次の火曜日から歌のクラスを始めようとしており、また他のプランテーションでは夜学校を作ろうとしている。私は彼の助けによってより大きな仕事が成し遂げられるよう希望する。私は昨夜パイコウ、そして今夜ヒ口のよい集会で説教した⁸⁾。
(以下略)

ここで初めて、星名の名前がハワイアン・ボードの記録に登場する。ちなみに翌1892年のハワイアン・ボードの年報（Annual Report of the HEA）にも次のような記録がみられる。

1891年6月ワイアケア耕地の契約労働者だったK・星名は、岡部氏によって教育を受けたクリスチャンであることを見出され、彼の契約の免除金を払ってこの仕事についた。岡部が日本に行つて不在の間、星名がヒ口の牧師の管区を監督したのである。面白いことにここでは新しい人たちが集会にやつて来て、15人が改宗したと報告されている⁹⁾。

ここですでに翌92年、岡部が日本に行つている間、彼がヒ口の管区を監督する立場にあつたことも述べられている。なお同じ年報で、星名の手当ての割合で63.10ドルをワイアケア・プランテーションに支払っていることが記載されている。

続いて1891年7月11日の岡部からエマーソンへの手紙は次のようである。

星名兄弟は今夜パイコウへ説教に行き、私はワイアケアからちょうど帰つたところである。私は彼が大変好きだ。私は良い料理人を持ったので、もう困難な仕事をする必要はない。私たちの夜学校と歌のクラスと祈りの集会は大変うまくいっている¹⁰⁾。(以下略)

7) O.P.Emerson は『MISSIONARY ALBUM』(Hawaiian Mission Children's Society, 1969)によると、1845年マウイ島生まれ、ハワイのプナホウ・スクールとマサチューセッツのウイリアム・カレッジを卒業し、1889年ホノルルに戻り、1903年までHEAの秘書をつとめた。

8) Hawaiian Mission Children's Society Library 所蔵史料。筆者訳。

9) 『Annual Report of the HEA』1892年6月、26頁。

10) 注8に同じ。

同じ7月23日の岡部からエマーソンへの長い手紙の一部に、星名に自分のベッドと寝具を与え、新しく自分のものを買ったこと、そして星名のために馬を買ったことを報告している。彼らは馬に乗って各伝道地にむかったのである。

8月11日の岡部からエマーソンへの手紙では、これより少し前に、新しく岡部の第2の助手となった峯岸についての報告とともに星名について次のように述べている。

第1番目の助手である星名兄弟は、神聖なキリスト教徒であり、教養のある適任の教師であることが証明された。だから私は、ヒロに次いで大切なハマクワに明日、彼を連れて行こうとしている¹¹⁾。

同じく8月22日の岡部からエマーソンへの手紙は星名について詳しい。

私はハマクワから数日前に戻ってきた。その際私は星名をホノカアにずっと働いてもらうために残してきた。私たちはその地区は宗教的雰囲気希薄で、道徳的な感情が弱いのが分かった。換言すれば、私たちはその暗い地区に光をあてるため“正義の太陽”を正に必要としている。私たちが働くのにすべてがそのように都合の悪い状況と知って失望したかどうかを星名に尋ねた。しかし彼は私にノーと答え、その活動場所が最悪の状況であるが故に、自分の努力によってしか良くならないうと答えた。私は彼の返答を聞き大変うれしかった。彼はそこでの働きについてあなたに報告があると思います。彼がただ一人助けもない状況なので、彼に同情し彼のために祈ってください¹²⁾。

9月9日、ここで初めて星名の書いた手紙が登場する。O.P.エマーソンへのホノカアからの手紙である。ホノカアはハワイ島の北部の地域である。

あなたや私自身の友人である岡部牧師はあなたのことを私に告げ、またあなたに時折手紙を書いた。私がこの国で働くことを許してくれた、あなたや他のハワイアン・ボードの方々は大変感謝しています。しかし私個人について言えば、なぜ、何が私にこのような最主要の仕事をもたらしたのかというのが避けられない疑問になるでしょう。あなたが岡部牧師から聞かれたように、私はこの国に労働者としてやってきて、多くの日々を労働に費やした。(中略)私はここで、全ての日本人同胞があらゆる不正が横行するみじめで墮落した状態にあることを見出した。そして私が先生から多くの機会に伝道師となるために告げられた言葉の思い出した時、私は心を打たれ、救い主キリストのために自分自身が働こうと決心した。これは私の使命であり私の思いである。しかし私は経験も力もない。だからあなたが私を直接、間接に助けてほしいと願っています。私のために神に祈ってほしい。(中略)ここでの私の仕事のことは書きません、ハイド博士がすでにあなたに述べたので¹³⁾。

11) 注8に同じ。なお、ハマクワはヒロの北隣の地区名。

12) 注8に同じ。

11月15日の岡部からエマーソンへの手紙には、この年の星名についてのまとめが述べられている。

私はここ3ヶ月間の仕事について言いたいことがたくさんある。とりわけ言いたいのは、私の助手のK・星名とS・峯岸両氏と彼らの仕事についてである。

星名氏は東京の青山学院を卒業し、契約労働者としてこの国にやって来た。彼が日本でしばしば聞いた苦しみに喘ぐ同胞者を助けようとの思いを抱いたのである。彼はプランテーションで一労働者として職務を遂行している間、彼が数年前に見出し信じる彼の創造者への祈りをもって、“この世で自分の使命は何であるか”を本当に真剣に熟慮した。彼はついに、キリストの福音をとおしての世界を救う全能者の尽力ほどすばらしく尊い天職はないと賢明に結論づけた。ハワイアン・ボードが彼を雇うやいなや、ハワイでの特別な仕事のために日本の外に神が彼を呼んだのだということを十分納得しながら、彼は意気込んで仕事に行った。

私が彼と一緒に3ヶ月ほど前にハマクアへ、仕事を始めるために行った時、私たちががっかりするようなことばかりだったので、私は彼に活動場所が都合のよくない状況だと知って失望していないかどうかをたずねた。しかし彼は失望していなかった。私とは反対に彼は希望に満ちていた。この3ヶ月間、彼は首尾よく仕事をしたので、“正義の太陽”が暗黒のハワイにいる日本人の上にすでに輝き始めた。遠くない将来、私たちはヒロで行ったのと同じように、そこでキリスト教の団体を組織することを期待する。H（星名）氏は体を横たえる決まった場所もなく、わずかな時間も働いた。しかしながら最近、古い家を借りるのに成功し、それを完全に修理し、ホノカアで不自由なく暮らしている¹³⁾。

この年、星名にとっては激動の年であっただろう。プランテーションにおける一労働者から一転して、岡部牧師の片腕として寸暇を惜しみ、ヒロを中心とした各地の耕地を巡回して懸命に日本人のために働いたのである。

3. 岡部牧師留守中の監督（1892年の活動）

この年の1月、ハワイ島北部のククイハエレ耕地において同胞殺傷事件がおこり、彼がこの事件に関わったことを示す記事がある。おそらく彼がホノカアで暮らしていた時に起こった事件であろう。彼以外にも当時の有力者とみなされる人物が名を連ねている。

布哇島ハマクア郡ククイハエレ耕地に於て就働中の同胞東伊平が白人ルナ（労働監督 筆者注）にピストルで脚を負傷せしめられたので巡回裁判所に告訴した結果被告人白人ル

13) 注8に同じ。C.M.Hydeは『MISSIONARY ALBUM』（Hawaiian Mission Children's Society, 1969）によると、1832年ニューヨーク生まれ、マサチューセッツのウイリアム・カレッジを卒業し、1877年ホノルル到着、HEAの秘書をつとめ、中国人、日本人、ポルトガル人教会を支援した。

14) 注8に同じ。

ナは六ヶ月の禁錮に付されると共に罰金を科せられた。其所で彼れは上告し上等裁判所で判事及立会人に金銭を賂ひし為め被告に無罪の判決を上等裁判所は下したのである。此所に於て原告は大いに閑却したが東伊平を助け其の黑白を明かにせんと在留同胞者鈴木國藏、山本晋、佐藤祐之、小野目文一郎、星名謙一郎、其他十數名の者が相謀り演説會を開き、伊平救助費と上訴運動費を広く同胞より集めんと義捐金募集運動を起し大審院に上告せんとしたのである。所が此の擧に恐れた被告は遂に移住民局及總領事館に仲裁方を依頼し来たので遂に伊平の扶助費三百五十弗を出さしめて日本に伊平を帰國せしめたものであると傳へられてゐる¹⁵⁾。

ところでメソジスト教会は、それまでハワイ島を除く、オアフ、カウアイ、マウイの各島で伝道地をおき、大きな成果をあげていたが、1891年になると突如として伝道を撤退しハワイアン・ボードへの譲渡を宣言した。これがきっかけで岡部牧師が伝道者募集のため日本にしばらく帰った。この年の1月に帰国し各地をまわって演説し、ハワイへの伝道師渡航を勧めた。彼の募集の訴えは功を奏し、とくに同じ組合派に属する同志社の出身者が多く集まり、ハワイ伝道に参加することになった。6月20日に岡部が大阪の島之内教会の牧師であった奥亀太郎とともにホノルルに戻る¹⁶⁾まで、留守を任されたのが星名である。彼はたびたびエマーソンに手紙を書いて伝道の様子を詳細に報告している。

2月17日、星名よりO.P.エマーソンへの手紙は以下の通り。

私はハイド博士の病気についての悲しい知らせを受け取りました。私は何がおこったのかは知らないが、たいした病気でなくすぐに良くなるものと信じています。私たちは昨夜の祈りの集会で彼のことを祈りました。もし時間があれば、彼がどうなったか私に知らせてほしい。

私たちの夕方の学校は大急ぎの状態です。私達は最近やってきた日本人の新しい会員を得ました。私はその中から教育を受けた人を見つけました。彼はキリスト教信者ではありませんが、教会に来ることを約束しました。彼は新来者の中では力を持っています。彼が教会に来るなら、多くの人が彼に従うでしょう。

私はベーカー氏¹⁷⁾が仏教の教義を聞くため、その通訳として仏教寺院を2度訪ねました。彼は真剣にその教義についていま研究しているところだと思えます。しかし、いまここにいる僧侶で彼を満足させないでしょう。

もしあなたが面白いニュースをお持ちでしたらどうぞ私に手紙をください。それで私は世界の風潮がどうであるかに興味がでてきます¹⁸⁾。

3月28日、星名よりエマーソン牧師への手紙。比較的長いもので具体的な活動の内容が書

15) 木原隆吉編著『布哇日本人史』(文成社、1935年) 454~455頁。

16) 注5に同じ。

17) ベーカー氏はヒロの外国人教会の牧師である。『Directory and Handbook of the Hawaiian Kingdom』1892-93年による。

18) 注8に同じ。

かれています。

私はヒロにあるこの教会について報告しますが、この3ヶ月間ここでは大したことは起こりませんでした岡部氏が日本に行ってから、私達は教会について、そのメンバーが欠けないようにという、いくらかの心配がありました。しかし神の最大限の救いによって、私達はすべてたゆまずに天国の門に向かいつつあります。さらに神は、最近この国にやってきた新しい同胞を私達に与えてくれました。もちろん彼等はすべて仏教信者であり、キリスト教について聞いたことのない人達です。彼等は毎日曜日、説教を聴きにやって来て、非常に楽しんでいるようにみえます。そして教会のメンバーの礼儀正しさやキリスト教の教義そのものに驚いています。彼等はみな日曜学校に出席し、喜んで外国人教師から学んでいます。キリスト教が何かを知らない新しい日本人が出席することによって、私達を勇気づけているように、私には思えます。日曜日には40人以上の出席者があり、そのほとんどが学校に出席しています。

毎火曜日の夜7時から、私達は教会で祈りに集まります。参会者は20人以上で、ファニーニョー夫人、リビングストーン夫人、マーチン氏やその他の女性が、祈りの前の1時間、私達に歌を教えてください。私達は以前より歌うのがじょうずになり進歩しました。

5週間ほど前に私はヒロから5マイルほどのオノメアプランテーションで夜学校を開きました。そのプランテーションは200人の日本人を含んでいます。最初の夜、50～60人の日本人が私のところに聞きにきました。その次から聴衆は40人を超えて、今はよい状態です。彼らは集会の場所として自分たちで納屋を建てると私に言いました。これが一番望ましい場所です。パパイコウの夜学校もうまくいっていますが、現在は以前のように多くなく、平均でおよそ15人です。

ワイアケア、ワイナク、アマウルなど他の夜学校は前の2つのように順調ではなく、すべて週一度でいつも6, 7人です。小林氏は若い日本人で、最近やって来て、私の家に泊まり、夜学校の仕事を手伝ってくれています。それらの場所で洗礼を受けたい人が15人ほどいます。私がおのことに付いてベーカー氏に尋ねたところ、彼は4月10日にセレモニーをやると言いました。

要するに、私達は心の中や教会においていつもの歩みを続けています。そして同時に何の障害もなく教会の内や外で平穩を保っています。神の祝福が私達に永遠に在りますように、アーメン。

追伸、岡部氏は1月29日に到着したと私に手紙を送りました。彼は風邪をひいたと書いてあります。私たちヒロのキリスト教徒は私達のために働いてくれるよい牧師を連れて戻るのを待っています。峯岸については何も聞いていません。彼は私の手紙に返事が在りません。しかし彼がよく働いていることを信じています¹⁹⁾。

5月12日、星名よりエマーソン牧師への手紙。

今月3日付けのあなたからの手紙を確かに受け取りました。私は私の教区の集会につい

19) 注8に同じ。

で報告したい。私は昨4月末のことについて書くことにします。

私がワイアケア、ワイナク、パパイコウ、オノメア²⁰⁾など全てのプランテーションで私が担当している夜学校では英語を教える前の1時間と後の1時間は何時も説教をしています。

だから集会の出席者と同様の夜学校の生徒がいるのです。ノートの空白を満たすためですが、残念ながら、あなたを満足させることは出来ません。わずか2、3の空白を満たすだけですが、それは私がよく承知しています。岡部牧師が教会のために記録を残して保持していた本を見つけることが出来ません。どうぞ私を信じてください²¹⁾。

5月17日、星名よりエマーソン牧師への手紙。

私は岡部牧師が7月までに戻らないと聞きました。彼はあなたに手紙を送ったのですか。もしあなたが彼について知っているのであれば、いま彼が日本でどういう状況か、どうぞ私に短信を送ってください。私は彼から手紙を受け取っていません、彼について何も知らないのです。岡部牧師が私にゆだねたハワイアン・ボードの徴募に対する、峯岸と私自身の今月分の給料に署名してよろしいでしょうか。あなたの指図をお待ちしています²²⁾。

6月12日、星名よりエマーソン牧師への手紙。

私は喜んでこの短信を書いています。本月5日の日曜日に、ベーカー牧師から洗礼を受け私達の教会を印象づける28人の新しい信者仲間を得ました。彼等は皆、ベーカー牧師、ライマン氏、そして私達の委員会による充分なる審査の後、誓いを立てました。私達はその日、最も神聖な方法でお互い親しい交わりを持ちました。それは異邦人の感情を魅了するものだと私を確信させました。その日は約80名が出席し部屋が狭く感じられました。この大きな仕事にどのように感謝していいかわかりません。しかしあなたに願います。おお！私達を助け、導いてください、そして一体何をすればいいのか教えてください。アーメン²³⁾。

岡部がハワイに戻ってきた後、最初の手紙は次のような短いものである。

8月4日、岡部よりエマーソン氏へ。

私は奥氏をホノムに送ることに決めました。そこで彼はハカラウとペペキオでも説教することができます。彼は今日私達のもとを離れるでしょう。星名は私と一緒にヒロの辺りに滞在し私を助けてくれるでしょう²⁴⁾。

同じく10月26日の手紙は人事に関してやや深刻な内容である。

20) ワイアケアはヒロの南2マイル、パパイコウはヒロの北5マイル、オノメアはヒロの北8マイルである。『Annual Report of the HEA』1893年6月、45頁による。

21) 注8に同じ。

22) 注8に同じ。

23) 注8に同じ。

私は今月ハマクワに行こうとしているので、要点のみを伝えておきたい。私は地方委員会と相談し、次のように決めました。(1)奥氏をホノルルに送ること。(2)そして峯岸氏を奥氏の後継者としてホノムに呼ぶがハマクワには説教者がいなくなる。(3)星名氏の辞職を受け入れる。彼は火山道路にあるオラアに農民として居住しようとしています。将来は自給伝道者となることを望んでいます。ハワイアン・ボードが星名の辞職を受け入れるかどうか。(4)星名氏が私から離れた場合、私は協力者として月20ドルの給料で下村氏を雇うことをボードにお願いしたい。下村氏はいま私と一緒に住んでいます。彼はアメリカに数年間住んでいた。そして3年半前にこの国にやって来て、ホノムの商店を続けてきました。しかしながら、不運にも数年前に熱病に罹ったが、それから回復しています。彼はすべての世俗の事業はあきらめ、精神的なものに献身しようとしているのです。

ウェットモア博士はこれらのことについてすべてあなたに書くと思います²⁵⁾。

星名は一時、ヒロからキラウエア火山へ行く途中にあるオラアに日本人伝道者として住んでいたようである。当時の住所録『Directory and Handbook of the Hawaiian Kingdom』1892-93年には、「HOSHINA Kenichiro, Japanese preacher, Volcano, Hilo」となっている。星名が突然いなくなったため、岡部が困惑している様子が次の手紙でも読み取れる。

11月7日の同じく岡部よりエマーソン氏への手紙。

実のところ現在、ヒロで私の代わりをしてくれる人が誰もいません。奥氏はホノルルで牧師をするのがよりよいので。このような訳で彼をあなたのところに送り、一方で私はヒロに留まっています。この決定により、私はハマクワに行き、峯岸をホノムに呼びました。そこで彼が私のねらいに近いことをしてくれると信じています。

奥氏はあなたから聞くと同時にあなたのところに行くことを期待しています。奥氏は大変経験があり、有能な牧師です。だからホノルルであなたを失望させることはないでしょう²⁶⁾。

12月7日の手紙では岡部はエマーソンへ、奥や熱病のため働けない下村について述べたあと、星名について次のように言っている。

星名はしばらくの間、私のところにやって来て、私を助け、また私を困らせました。星名が主として働いたオノメア、カラナ、パパイコウの人々は彼を思い、彼が戻ってくことを望んでいます。彼等は、私が無理にでも星名を以前の仕事に戻そうと試みないならば、嘆願書をもった人をホノルルに送ろうと言っています。彼が以前のように働くことを同意するならば、彼を雇うことをボードに願いたい。彼は戻ることを断るようであるが、私はそのような人々を満足させるために試みなければなりません。パパイコウで商店を経営している大槻氏は私たち教会の執事で会計係ですが、そうした人たちの1人です。

24) 注8に同じ。

25) 注8に同じ。

26) 注8に同じ。

最近、アメリカから来てあなたの住んでいる都市にいる林博士のことを知らせていただけませんか。彼は私の古い友人です。出来たら彼に会いたい。彼は、私の友人でもある若者が、この国に来て伝道者になりたいといっていると手紙で書いてきました。もし私達がかつと多くの伝道者が必要なときは、私に知らせてほしい²⁷⁾。

大槻というのは第1回官約移民の大槻幸之助で、当時パパイコウで雑貨店などを営んでいたこの地方の有力者である。彼をはじめとして、星名が復歸することを皆が望んでいる様子がかがえる。そしてこの年の締めくくりとして、12月29日に岡部は次のような手紙をエマーソンに送っている。

クリスマスそして新年おめでとうございます。そしてあなたのすべての兄弟たちにも。

この種の手紙をいただいたことに変感謝します。私たちと一緒に働いてくれる2人の若い人が来たと聞いてうれしかった。

高森氏はよく知っています。彼は聖徒的な人です。あなたが彼をカウアイ島に送るのは非常に親切で用心深いことです。というのは彼が繊細だからです。しかしながら江上氏は個人的には知りません。私の友人達が彼を精神的な人だと私に推薦してくれました。2人とも私達を失望させることはないと思います。彼等はキリスト教の学校で訓練され、神学の正規課程を取得していないけれども、休暇中に多かれ少なかれ説教の経験をもっています。私達はハワイでそんなに神学を必要とはしません。私達はどうでしょう。この前の手紙であなたに提案したので、あなたに尋ねたいが星名氏は前の事務所に再び戻り、そして同意したのでしょうか。彼はオノメア砂糖会社で日本人のすべての世話をしています。そこには5箇所の説教所があります。すなわちカワイヌイ、オノメア、カラナ、パウカとパパイコウで、パパイコウに寝所とする本部を置いています。私は彼に93年1月からの給料を要求します。多くの試みの後、私は次のような結論に達しました。あらゆる方面に私達の手を広げる前に、私達は力を結集し各島で要塞を建設しなければなりません。ハワイ島ではすでにヒロで要塞を建設したと私は思います。事実私たちはすでにハマクワからワイアケアまでと少し先のオラアまでのヒロの全地区をキリスト教化しています。そこでは私達の仕事にとって今は最も望みがあります。私達は来年早々にも暗黒の力と大きな戦いをするでしょう。私はあなたが他の島の仕事をみて、各島の要塞を建設する人達に指図することを願います²⁸⁾。

星名はこの時点で、パパイコウにあるオノメア砂糖会社の戻ってきたようである。1893年のハワイアン・ボードの年報(Annual Report of the HEA)にはこの年の出来事として次のように記録されている。高森貞太郎と江上源三はともに同志社出身である。

昨年、岡部氏は4ヶ月以上の間、母国日本を訪れて彼の活躍舞台を留守にした。彼はT.K.奥氏を伴って帰ってきた。奥氏は一時ハワイ島のホノムに駐在したが、今はこの

27) 注8に同じ。

28) 注8に同じ。

市（ホノルル）の牧師である。

岡部氏はハワイ島における業務の中心としてヒロに本部を持ち、星名氏と峯岸氏はパイコウとホノムという外の部署に配置している。

1892年12月、砂本氏はこの市から撤退し、奥氏はその任に当たっている。高森とG・江上兄弟が日本から到着したのは同じ12月であった。同月、彼らのうちの1人はマウイ島にそしてもう1人はカウアイ島の部署についた。江上氏は広田氏が最近まで管理し撤退したパイアで業務を担っている。パイアでの外国人教会はT・L・ギュリック牧師で、彼がこの仕事を支援している。高森兄弟はカウアイ島の中心リフエで働いている。マウイ島もカウアイ島もまだ日本人教会は形をなしていない²⁹⁾。

4．1893年以降の様子

1894年のハワイアン・ボードの年報（Annual Report of the HEA）には岡部次郎牧師による報告書が掲載されており、そこでは昨年度日本人伝道の歴史は成長と成功において未曾有であったと最初に述べた後、各地の伝道の様子を詳細に報じているが、峯岸と星名について次のように述べている。

S・曾我部氏は日本から新しく伝道者の1人として到着し、S・峯岸氏の後を継いだ。峯岸氏は、ごく最近になって職務をやめてアメリカで彼の研究を再び続けようとしている。彼の3年間にわたる誠実な奉職に対し感謝です。K・星名はパイコウでプランテーションの監督者（測量者）として滞在し、ハワイアン・ボードのもとでの巡回説教者であった時と同様に、誠実に私達の布教のために働いている³⁰⁾。

やはり星名はオラアからパイコウに戻り定住伝道者となったが、それ以外にプランテーションの監督の仕事も兼ねていたようである。しかし、奥村多喜衛牧師による『布哇傳道三十年略史』（1917年）のパイコウ基督教会の項目に「岡部次郎氏ヒロより此地に傳道の手を延せしが。その初めて定住傳道者の送られしは千八百九十三年にして。最初の傳道者は星名謙一郎なりし。千八百九十四年五月佐々倉代七郎氏夫妻来任³¹⁾。」とあり、彼は伝道者としては1年ほどでやめたことになっている。

なお、同年6月9日の岡部よりエマーソンへの手紙はつぎのようである。

3人の伝道者が日本とカリフォルニアから同時に呼ばれてきました。1人はコハラに行こうとしています。そこではオストロム牧師と毛利博士によってある期間、業務が行われてきました。そこでは支援の金は伝道者から消え去るかもしれない。

他の2人は峯岸氏と星名氏の代理です。前者は彼の研究を仕上げるためにアメリカに行

29) 『Annual Report of the HEA』1893年6月、42頁。

30) 『Annual Report of the HEA』1894年6月、32頁。

31) 奥村多喜衛『布哇傳道三十年略史』（1917年）68頁。

こうと望んでおり、後者はパイコウ・プランテーションで自給の仕事をやろうとしています³²⁾。

新しくやってきた3人の伝道者のうちハワイ島北部にあるコハラに行ったのは神田重英、峯岸と星名の代理はそれぞれ曾我部四郎と佐々倉代七郎であろう。いずれも同志社出身者である。星名の自給の仕事とは何か。それは彼のハワイでの職歴を紹介した文章中の「パイコウ製糖所の通辨兼測量師」に違いない。

最後に、峯岸の代理としてホノムにやってきて、その地で生涯を伝道と教育のために捧げた曾我部四郎牧師の着任当時の回顧録を紹介しよう。

そういう時代だったから伝道師だといったところで今日のように、サンデーの説教だ、ウェンズデーのプレイヤー・ミーティングだ、家庭訪問だといったようなのと違って、領事館の掛合、正金銀行の送金、横浜ジャパンの代筆から、引っぱりなしに起った夫婦喧嘩の仲裁、耕主への交渉一切の事の相談相手でもあり、村長のようでもあり、我の如きは、今日では何一つ自分でせず、オートモビルのドライブすら出来ない男になってしまったが、其の当時では天長節のような時には、詩吟や剣舞劇までも教えたもんである。

岡部次郎氏の如きは、東洋豪傑肌の牧師であったから、従って、ミスター・キンネーの如き人とも、大いに共鳴し、一日談興に入り『それじゃあ、君達にやらせて見るから一つ、やって見よ』…『いかにもやりましょう』と、いうことで、いよいよ星名謙一郎君をヘッド・ルナとして、之から打ち始めようという段取にまで運んだ時ホノルルから計画不承知の書が来たので、それっきりになった、という話も残っている³³⁾。

ルナとは労働監督のことで、彼は実際にヘッド・ルナに近い仕事をパイコウのプランテーションでやっていたかもしれない。これ以後、キリスト教伝道者として彼の名前は登場しない。

参考文献

新聞・雑誌・年報：

『基督教新聞』第206号(1887年7月6日)。

『Directory and Handbook of the Hawaiian Kingdom』1892-93年。

『Annual Report of the Hawaiian Evangelical Association』1892~1894年。

『渡米雑誌』(第10年第11号、1906年11月)。

書籍：

藤井秀五郎『新布哇』(大平館、1900年)。

奥村多喜衛『布哇傳道三十年略史』(1917年)。

32) 注8に同じ。

33) ヒロタイムス編『移民百年記念ハワイ島日本人移民史』(ヒロタイムス、1971年) 201頁。なお、この回想録は「1940年10月26日付、ハワイ毎日特集号ホノム版より転載」とある。

青山学院五十年史編纂委員会編『青山学院五十年史』（青山学院、1932年）

木原隆吉編著『布哇日本人史』（文成社、1935年）

『MISSIONARY ALBUM』（Hawaiian Mission Children's Society, 1969）

ヒロタイムス編『移民百年記念ハワイ島日本人移民史』（ヒロタイムス、1971年）

同志社大学人文科学研究所編『北米日本人キリスト教運動史』（PMC 出版、1991年）

その他：

Hawaiian Mission Children's Society Library 所蔵史料。

青山学院大学図書資料センター所蔵史料。

